

編集・発行
西砂会館
管理運営委員会
委員長 鈴木久米

立川市西砂町5-11-13
電話：042-531-0066

印刷：マスタ印刷
電話：0428-22-3047



会館利用率評価はBクラス

委員長 鈴木久米

当会館の利用率は市内11館の中で一番最低である。理由は簡単で、市内で一番立地条件の悪い位置に建てられている。端的に云うならば当館は西砂町一〜七丁目エリアの五丁目に在り、六丁目にも同じような館西砂学習館が在る。行政の評価は学習館は30.6%で西砂会館は29.5%であるにもかかわらず、行政の西砂会館に対する評価が悪い。なぜならば、毎年指定管理料の賃金をカットしている。私は左記に記すとおり行政の考え方が当方と違いが多く有りすぎると思われる。

私は地域内の各種団体（五団体中の三団体）の定期総会に出席し、西砂会館を利用して頂くようアピールを行っているにもかかわらず、殆ど

利用して頂けない。理由は簡単で、場所が遠いからである。当館は20台分の駐車場が有るにもかかわらず、利用者が無い。

以前、空部屋を無くす運動を行いポスターを作成して会館の回り、西砂学習館等に貼ったが何の効果も無かった。利用については各自自由であるが、地域の団体長の考え方もある様に思われます。そう云う考え方を見直さない限り、毎年この様な事が続いてしまい、大きな問題になりかねないと思われます。そうこう云ってもだめで、当館では伝統文化である食文化活動を前向きに・前向きに行い、昔ながらの食を地域にアピールして行く。また、毎年一回行っている防災訓練を継続して必ず行うことにする。

なぜならば、AEDの操作方法など訓練を重点的に行ってきたことが、過日館内で緊

急事故発生した時に、素早くAEDの操作等の対応出来、大事に成らなかつた。

今後の活動についても地域内の団体の協力を得て、会館まつりなどに参加して頂き、盛り上げてもらう事と活動内容なども前向きに考え、地域の特色を組み入れた会館運営を心掛けて行う考えであります。

八月七日 日曜日

会館にて

『流しソーメン大会』を開催いたします

地域の皆様のご参加を、お待ちしております。





『西砂会館まつり』
 去る三月十三日に第二十二回西砂会館まつりが行われました。当日はもちつき、手打ちうどん、地元野菜や包丁研ぎなど盛況で午後からの演芸の部もとても楽しく終わりました。



手もみ茶作り
 去る五月八日にお茶摘みと手もみ茶作り教室が行われました。

一番組の天王様
(八雲「八坂」神社)の話

内野忠司

茶の間の風土記

五日市街道が玉川上水と交差する地点に奉られている天王様(八雲神社)は一番組の邑人の心の拠り所として奉られている。昭和十年(1935)の頃以前は五月五日〜六日に祭りが行われていて、年の暮には子供達が「根っこくんない」と言って部落(旧一番組)の家々を回り薪類を集め、更に御神酒くんない」と銭を貰って、そのお金で菓子やミカン等を買って参加した子供達が分け合いました。薪類は十二月三十一日翌一月一日の朝にかけて燃やして新年初詣での人々が寄って暖まって行きまし。残りの薪は二月三日の節

分の晩に炊きました。(一番組の人々は四番の阿豆佐味天神社の氏子なので四番組の子供達が来て同じ様に「根っこくんない」

「御神酒くんない」が繰りかえされます)

八雲(八坂)神社が何時この地に奉られたのか資料がないので不明ですが玉川上水の一の橋の名が天王橋として名付けられているから村落が形成された頃からだろうか?

村誌によると「明治十年頃の記録に「雑社八雲社」拜島の



道南割三千二百十二番地にありと記されている。

私の子供の頃、昭和十年頃(1935) 古老(菊池多蔵)さ

んの話では二番の武蔵屋(内野)さんの家にあつた神社を一番組で貰い受けて現在の所に奉つたと言う、その事は不明だが色々の祭事の時には二番の内野家へ行っていたものでした。全村(中

里、宮沢、殿ヶ谷は別)の神社としては一番組(一番町)から十番組(若葉町)迄の氏子を持つ阿豆佐味天神社があ

ります。

八雲(八坂)神社が何故「天王様」と言われているのか、素佐鳴命(天照大神の弟と言われている)が追われて出雲の国に来たとき、八頭の大蛇を退治してその地の姫と結ばれ居を構えた時「八雲立つ、出雲八重垣ツツミこめに、八重垣作るその八重垣を」(日本最初の和歌と言われる)この歌の八雲立つから素佐鳴命を奉る神社が八雲神社と言うのでは、京都にある祇園祭りで有名な八坂神社(祇園社)の祭神は素佐鳴命と奇稲田姫命「キナダヒメノミコト」とその除疫神として合祀している「午頭天王」(ゴツテンノウ) (インドの祇園精舎の守護神で薬師如来の変身と言われている又、素佐鳴命の変身とも言われている)の八雲(八坂)神社を天王様と言っているのではないか。

管外研修

去る六月二十三日（木）に西砂会館運営委員・利用者の管外研修を実施致しました。

今回の研修は、信州上田真田丸大河ドラマ館と松代真田公園宝物館を訪ね、車内研修は、宮崎光一様により、西砂地域と殿ヶ谷分水の史跡について、お話をさせて頂きました。出発する時は、小雨も降っていました。最初の見学地真田丸大河ドラマ館に着く頃



史蹟 真田城跡

には、雨も止んでいました。やはりNHK大河ドラマ

「真田丸」人気なのでしょう。平日でしたが、凄い人でした。ドラマ館では、衣装や小道具の展示もありました。

上田から松代へ移動して、昼食後は、真田宝物館へ行きました。



真田宝物館（松代町）

宝物館では、陣羽織、真田家伝来の大名道具、真田信繁自筆の礼状。

現存する、真田信幸最古の書状も展示されていました。

歴史好きな方、大河ドラマを見ている方には、何時間でもいたい所でしょう。

その後、宮坂酒造を見学し研修を終了致しました。

今回は、初めて会館利用者団体の方にも参加して頂き、ありがとうございました。

又、参加して頂きました皆様お疲れ様でした。

西砂会館利用案内

「開館時間」

午前九時～午後十時

「利用申し込み受付日」

毎月一日と月・水・金の

午前九時～午後五時

（正午～午後一時を除く）

印刷機も有料にて利用できます。（使用受付時間内）

「休館日」

第二火曜日・第四木曜日

「お問い合わせ」

助 五三一 〇〇六六

会館内は禁煙です

編集後記

先日、出勤した際、携帯電話を忘れ二十代の部下に話したところ、携帯電話が無かったとき待ち合わせはどうしていたのか質問され、ふと、昔を思い出した。昔は各駅などに伝言板が設置されており、友人、恋人、家族等に宛てた様々なメッセージが伝言板に書かれていた。待ち合わせ時間は厳守であった。昨今、各個人が携帯電話を持ち歩く時代、少し遅れても連絡すれば平気と考えている人もいるのではない。携帯電話に限らず様々な便利グッズの普及により利便性は向上したが、そこには、何か大切なものが失われたように感じるの、私が年をとったせいなのか。

